



2月のおもしろ宇宙教室 < 現在受付中 >

名 称	日 時・内 容	定員
宇宙開発教室① (全11回)	4日④ 有人月面着陸を目指す「アルテミス計画」について学ぶ «午後2時～(60分)»	7人
ドローン教室	18日④ トイドローンを使って、ドローンの仕組みや利用方法などを学ぶ «午後1時～(60分)»	7人

※小学生以上が対象です。おもしろ宇宙教室の参加には入館料はかかりません。

※申込みは、各教室の1か月前から電話で受付します。休館日：毎週月曜日（祝日の場合は翌日）

※教室の参加には、氏名、住所、連絡先電話番号、年齢のご記入が必要です。

●冬期間の宇宙記念館運営について

観覧について

宇宙記念館は4月14日（金）まで、展示施設の観覧は休止しています。なお、冬期間は教室や講座など各種事業を開催します。

詳しくはその都度ご案内いたします。

施設の利用について

冬期間は宇宙記念館を有効に活用していただくため、多目的シアターや会議室などの各施設を利用できます（有料）。各種会議等にご利用ください。

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、利用を制限する場合がございます。詳しくは、お問合せください。

※詳細は ☎21-2200) 問合せいただくか

余市宇宙記念館ホームページ

(<https://www.spacedome.jp>) をご覧ください



◀ホームページ
をご覧ください

余市宇宙記念館では
「サポートボランティア」
を募集しております。

余市の人々。 第20回 【江部拓弥】

戦略推進マネージャーの連載を広報誌で掲載しています！

タイトル [Jijiya・Babaya]

余市ではヘラガニがよく獲れる。辻さんが子供の頃は、もっとよく獲れた。「浜で湯がいて食べたこともあるんですよ」と辻さんが言うように、身近で手軽な食材。なんだけれど、辻さん、ヘラガニを使うことのためにらいたったみたい。

「だって、ヘラガニで喜んでくれる人がいるとは思わなかったから」

ヘラガニは全国的にメジャーなカニじゃない。実は道内でもほとんど流通していない。辻さんには当たり前だけれど、小樽より南の日本海側で揚がる地産地消のカニだ。ましてや余市でも、最近の子供たちはヘラガニをおやつに食べたりはしない。

「若いお客さんが知らないって言うんですよ。余市の人なのにですよ。私、驚いちゃって。ヘラガニが珍しいなんて思っていないから、こんなに人気が出るなんて想像もしませんでした」

ジジヤババヤの開店前、辻さんが手にしたカニのトマトクリームパスタのレシピはワタリガニを使うものだった。確かにおいしい。けれどワタリガニは高い。余市の人が気軽に食べるには不向きな値段になってしまふ。そこで辻さんは考えた。ヘラガニを使ってみようかなと。試したらうまかった。でも迷った。味には遜色はないけれど、ヘラガニだもんなあ、と。そして決めた。自分の店なんだから、いろいろやってみてもいいはずだと。結果、ヘラガニがいい、となった。いまやヘラガニのトマトクリームパスタはジジヤババヤを代表する一品となっている。

「子供の頃から慣れ親しんだ余市のカニを使ったパスタが名物になるなんて嬉しいですね。昔って食べるものも質素だったとか言うけれど、浜でヘラガニを頬張っていたことを思うと、実は贅沢だったんだなって」

※「余市の人々。」は、余市町戦略推進マネージャーの江部拓弥（えべたくや）さんが、余市町に関わりのある人物へのインタビューをもとに執筆し、「WEB本の雑誌。」(<https://www.webdoku.jp/column/ebe/>)に掲載されているものを、転載しております。※掲載日 2020. 8. 31